

## 西屋城の合戦③

天正九年（一五八一）一月、毛利方の守る祝山城（津山市吉見）が、宇喜多方の攻撃により放棄された頃、美作西部における毛利と宇喜多の攻防は、一進一退を繰り返していった。

毛利方において、美作西部の攻略を任されていたのは、葛下城（山城）の城主・中村頼宗です。頼宗は、祝山城合戦後も積極的に行動を起こします。

同年六月二十五日、頼宗は出雲街道の要衝にある岩屋城（津山市中北上）を襲撃しました。美作における合戦の中でも名高いこの戦で、頼宗は宇喜多方の浜口家職（いへもと）が守る岩屋城



中村頼宗の供養塔（入無量寺）



岩屋城跡（津山市中北上）



西浦城跡（井坂・養野）

に、西浦城（井坂・養野）城主・大原主計助と三十二人の侍を風雨の夜に城に忍び込ませ、急襲して半時（一時間）余りで城を奪います。そして居城を岩屋城に移し、さらに近隣の城の攻略にあたります。当然西屋城もその視野に入っていました。

岩屋城襲撃から一ヶ月も経たない七月十九日付けで、頼宗が配下である桜井藤兵衛へあてた手紙が残っています。藤兵衛から内密に持ちかけられた依頼への返答のようで、中身は、「内密の話は了解した。それでは、

「内密の話は了解した。それでは、若口宗十郎を討ち果たせば二〇貫文を、市庭を焼き討ちにすれば一〇貫

文の褒美を与えよう。さしあたって必要な贈り物も久次郎（藤兵衛の弟）へ伝えてるので、速やかに実行するように。」

という内容で、おそらく宇喜多方の内通者との調整を藤兵衛に命じたものであると思われる、宗十郎を殺害することと市庭を焼き討ちにすれば褒美を与えることを約束しています。「市庭」は、『美作古城史』では久田の市場とされていますが、『奥津町史』では香々美庄市場（鏡野町市場）とされています。いずれにしても当時、宗十郎もしくは宇喜多方にとって重要な場所であったのでしよう。

桜井藤兵衛は、以前は齋藤近実に属し、藤兵衛の長子・内蔵丞は近実の養子となっている間柄で、齋藤家とのつながりが深かったため、かつての誼みを通じて齋藤家の家臣に内通をもちかけていたのではないかということが想像できます。この頃、齋藤近実と若口宗十郎が西屋城に在城していた可能性は高いので、まずは調略によって西屋城の内部からの攪乱を図ろうとしたのでしよう。しかし、この策は残念ながら失敗に終わり、頼宗はいよいよ西屋城の攻略に本腰を入れます。

西屋城周辺には、山城跡が複数存在しますが、そのうちのいくつかは

西屋城を包囲するために使用されたといわれているものがあります。その一つが井坂集落背後の尾根上にある西浦城です。吉井川を挟んで西屋城を背後から牽制し、津山盆地と山陰を結ぶ交通路を押さえた戦略上重要な場所に位置しています。『作陽誌』には「井坂堡」という名称で、「城主はわからないが、かつて西屋城と争ったといわれている」と書かれています。前記のとおり大原主計助が城主であったとされる資料もあり、岩屋城に続き西屋城攻めにおいても主計助が重用されていることがわかります。

また、この他にも養野には二山城、寄山城などの小さな山城が残っており、築城時期等は定かではありませんが、交通の要衝にあることと、養野からは西屋城の主郭部分が良く見えることから、地域の言い伝えにあるように、西屋城の見張り場として造られた可能性が高いのでしよう。

こうして、西屋城は毛利方により包囲され、いよいよ攻城戦が始まります。

参考：『鏡野町史』『奥津町史』『作陽誌』『美作国の山城』『美作古城史』『美作大庄屋・大年寄記』  
協力：日蓮宗福聚山無量寺

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下  
電話（0868）5417733